

3次元表示

シャープ製 3D モニタでのステレオ表示

構成：

- ・ シャープ製 LL-151-3D 15 インチフラットパネルステレオモニタ 解像度 1024 × 768 (～ US \$1500)
- ・ Apple G5 PowerMac デュアルプロセッサ または 使用中の TNT 用 PC とディスプレイボード



特徴：

シャープ製ステレオモニタは TNTmips で作成した高品質なステレオ画像を特別なメガネや機器を使わずに見ることができます。通常の 2D 表示とステレオ 3D モード表示とは簡単に切り替えることができます。普段の 2D 表示で使用しているより大きな高解像度モニタと一緒に 2 台構成にして使うこともできます。

シャープのステレオモニタ上でステレオ効果で表示するための適切な距離は TNT 3D グループで設定するステレオ分離量に依存します。この分離量は〈TNT 3D 視点コントロール〉ウィンドウにある [ステレオ深度比率 (Stereo Depth Scale)] と [ステレオベース距離 (Stereo Base Distance)] の値を使って設定します。

正しいステレオ効果を得るには、ステレオベース距離が 3D 表示している一番近いオブジェクトまでの距離よりわずかに短く、ステレオ深度比率が 5 ～ 15 の間が適当です。(ステレオ深度比率の値がそれより大きいとステレオ分離量が大きくなり視差角度が大きくなり、モニタの許容可能範囲を超えてしまいステレオ効果が得られません。)

長所：

- ・ 画像を使った、安定した、明瞭なステレオ像
- ・ 面倒な立体画像用メガネをかける必要はありません。
- ・ 通常の 2D 表示から 3D ステレオ表示への切り替えが簡単です。
- ・ 眼精疲労が低度。目への負担はプリント写真を使用したときと変わりません (他の多くの立体表示機器では、眼精疲労と疲れを引き起こします)。

短所：

- ・ 一般的なモニタよりも高額です (US \$1500 程度)。
- ・ 縦インターリーブ立体画像によりスクリーンの水平解像度が半分になり明るさが半減します。
- ・ 立体表示できる視野や距離が狭い。



高解像度のオルソ (正射) 画像およびデジタル標高モデルは現在広く入手可能です。TNTmips や TNTedit、TNTview で高品質なステレオ表示が可能であり、2次元や3次元鳥瞰図表示のパワーを増強します。ステレオ表示は、直接フィールド調査を行うには費用や時間がかかったり危険を伴う場合に、地上の状態や特徴を調べ図化するのに効果的です。ステレオ表示はまた、地表面とその下の構造の3次元空間を明らかにするのに効果的です。ステレオ表示は TNTmips および TNTedit の空間エディタで利用でき、2D ウィンドウでの地理データの編集作業をアシストします。